

チャレンジ! 地域づくり



つくば地域まちづくりの始め方 ノウハウブック

世界の
あした
が見えるまち。
TSUKUBA



あいさつ

つくば市では2017年度に周辺市街地振興室を立ち上げ、周辺市街地の振興をはじめました。

つくば市全体が持続可能な都市になるために、中心部と周辺部が連携し、ヒト・モノ・カネが中心部から周辺部へ流れていく「遠心力」を働かせていきたいと考えており、中心市街地の活性化に併せて、市の周辺部に位置し、旧町村時代からの身近な生活の拠点である周辺市街地の振興を行っています。

今、周辺市街地では、地域にお住まいの皆さんが主体となって自ら地域づくりを行う機運が高まってきました。市はその自発的な取組をサポートするために、地域づくりのアイデアを出し合う場である「まちづくり勉強会」の開催や地域づくりのための組織である「周辺市街地活性化協

議会」の発足支援、地域づくり活動の支援として「周辺市街地活性化チャレンジ補助金」の支給等の施策を展開してきました。

今後は、周辺市街地における地域主体の取組をモデルとして、他の周辺地域や人口が減少している団地等に横展開していきたいと考えています。そこで、周辺市街地振興でこれまでに得られた地域づくりのノウハウを広く伝えていくために、このガイドブックを作成しました。ぜひ地域づくりを進めていく一助にしていただけたらと思います。

地域の皆さんの幸せを「ともに創る」ために、これからも全力で取り組んでいきます。

つくば市長
五十嵐 立青

目次

はじめに

周辺市街地の取組について	6
地域づくりのステップ／ガイドブックについて	8

地域づくりのSTEP

STEP 01	地域を知ろう	10
	ポイント 地域の魅力を再発見しよう	
STEP 02	地域づくりの仲間を見つけよう	12
	ポイント 地域づくりのきっかけをつくろう	
STEP 03	地域への想いを共有しよう	16
	ポイント 地域の未来を話し合おう	
STEP 04	地域づくりのアイデアを考えよう	20
	ポイント 地域活性化のヒントを見つけよう	
STEP 05	地域づくりの体制をつくろう	24
	ポイント 役割を決めよう	
STEP 06	アイデアを実現しよう	28
	ポイント できることから始めよう	

実務編

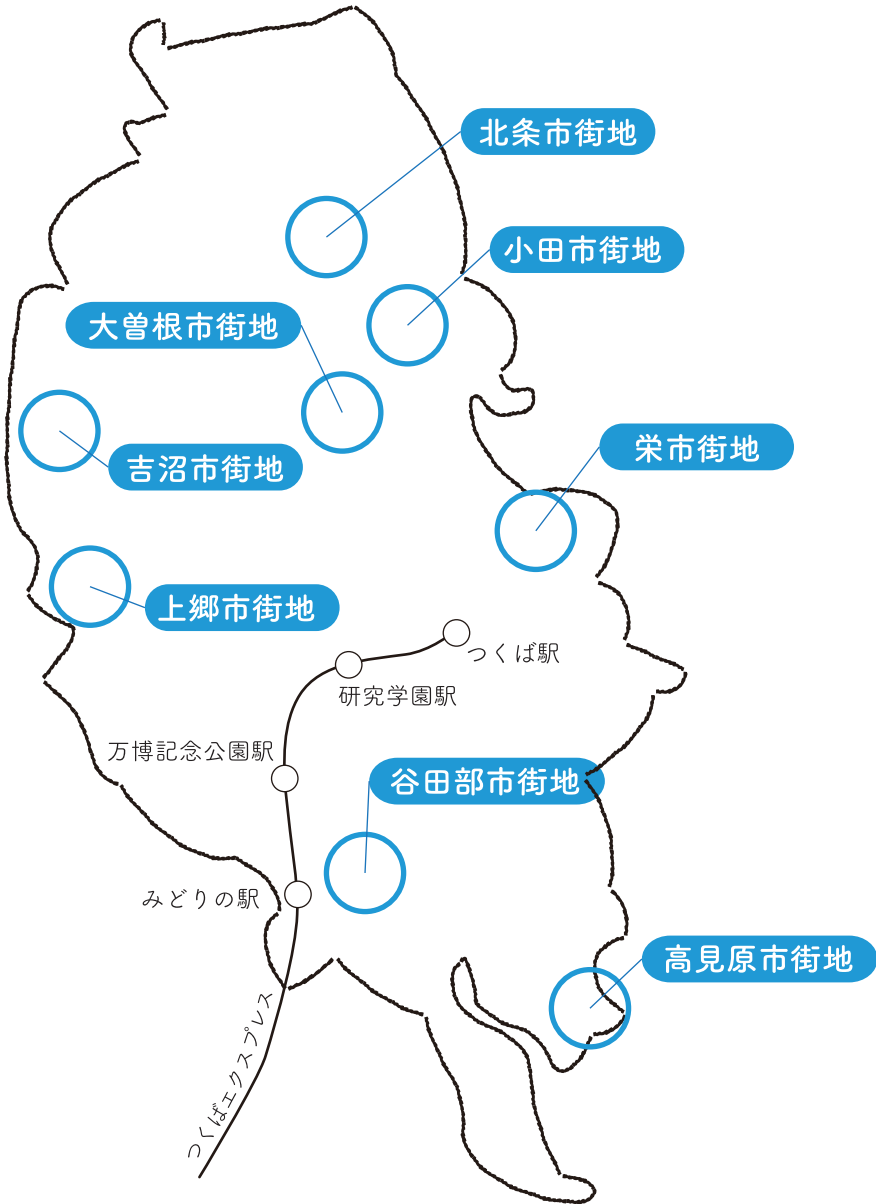
CASE 01	マップづくりのプロセス	32
----------------	-------------	----

CASE 02	イベント実施のプロセス	34
----------------	-------------	----

資料編

	周辺市街地における協議会設立までの取組	36
--	---------------------	----

周辺市街地の取組について



周辺市街地とは

周辺市街地は、合併してつくば市となる前の旧町村時代から生活の拠点として発展してきた市街地（北条、小田、大曾根、吉沼、上郷、栄、谷田部、高見原）を指します。

周辺市街地の現状と課題

周辺市街地は医療、福祉、教育、行政等の公共公益施設や商業・業務施設など多様な機能を持つ生活の拠点として発展してきました。また、その周辺の地域もそうした機能と密接に関わりながら生活を営んでいます。

しかしながら、少子高齢化の急速な進行、めまぐるしく変化する社会情勢等により、様々な課題を抱えるようになってきました。

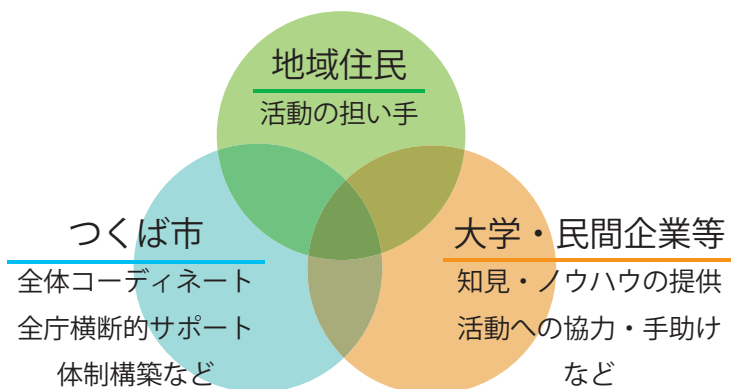
周辺市街地の振興に向けた取組

様々な課題に対応するため、地域の方々にとってより暮らしやすい環境を実現し、地域が自走できるまちづくりに向け、大学・民間企業等の外部の知見・ノウハウを取り入れ、地域の方々の望む地域像を実現しやすくできるよう、地域住民、つくば市、大学・民間企業等の協力により事業を推進していく体制づくりを進めています。

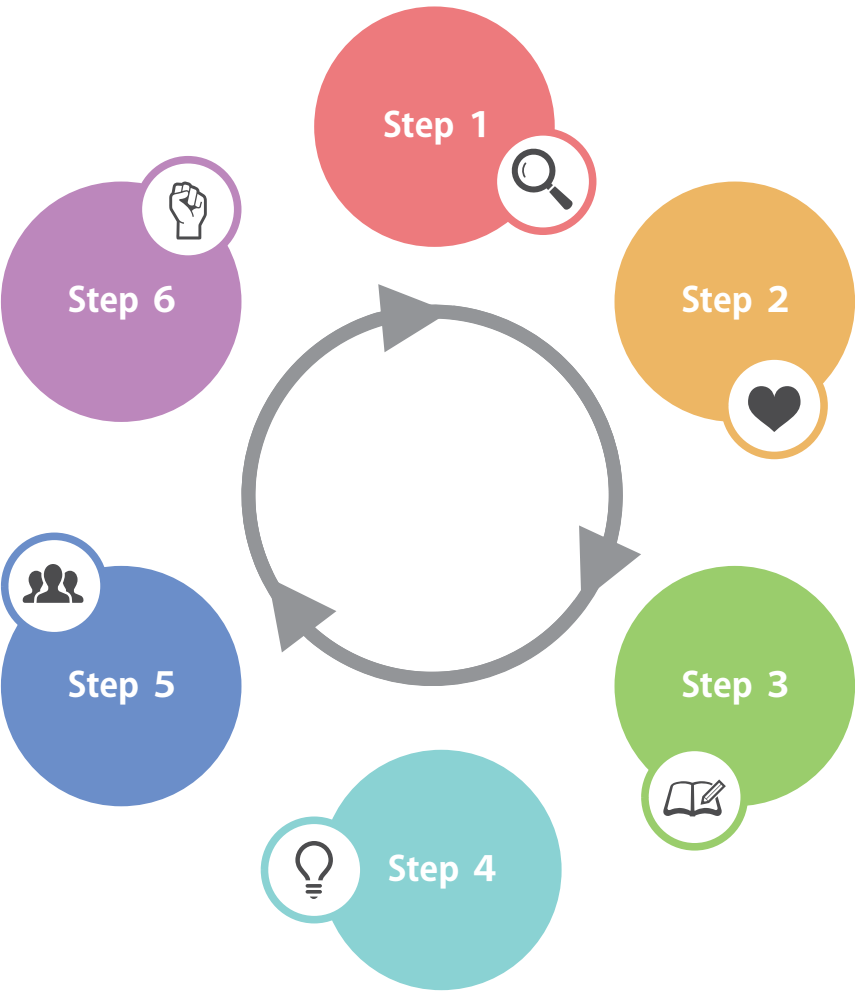
周辺市街地をモデルにノウハウの横展開

これまでの周辺市街地における活動をモデルに、市内の他の周辺地域または人口の減少が進む団地等に地域振興の取組を横展開していきたいと考えています。

このガイドブックをぜひ取組の参考にしてみてください。



地域づくりのステップ



ガイドブックについて

本書は、地域づくり活動のはじめ方を紹介するガイドブックです。

Step1 地域を知ろう

Step2 地域づくりの仲間を見つけよう

Step3 地域への想いを共有しよう

Step4 地域づくりのアイデアを考えよう

Step5 地域づくりの体制をつくろう

Step6 アイデアを実現しよう

●地域づくりのStep

地域づくりをどのように進めていくか、Step 1～Step 6に沿って地域づくり活動のプロセスを考えましょう。

それぞれのステップは関連性を持ちながらループしています。

●地域づくりのノウハウ

実際の地域づくり活動のプロセスについて、周辺市街地における地域づくりのケースを例に紹介します。

どんな場合にどんなことが必要か、ノウハウを参考に自分たちがすべきことを確認しましょう。

01 地域を知ろう

ポイント

地域の魅力を再発見しよう

地域づくり活動の始まりに欠かせないこと、それは自分が暮らす地域を知ることです。慣れ親しんだ地域でも、意識して見直すことで普段は見えていない特徴や魅力に気づくことがあるでしょう。

このステップでは地域の特徴や魅力を知るためのポイントを紹介します。

地域の風土や歴史を知ろう

地域の風土や歴史を知することは、地域の特徴や、その地域にしかない魅力を知ることにつながります。詳しい人に聞いたり、本を読んだり、無理のない範囲で調べてみましょう。

地域の人々に聞いてみよう

地域には、住んでいる人、働いている人、学んでいる人など、多様な人々が生活しています。自分には見えないことも、他の人は見えているかも知れません。いろいろな人に地域のことを聞いてみましょう。

まち歩きをしてみよう

まずは自分の目で、ありのままの地域の様子を見てみましょう。「きちんと見るつもりで見る (watch)」ことが大切です。日常生活で「目にしている (see)」こととは全然違うものが見えてくるはずです。



01 まち歩きのポイント

●モノの見方を変えてみよう

普段何気なく通っている道や見慣れた街並みでも、意識を変えるだけで見え方が変わってきます。視界に入ったものに「なぜ？」と疑問・関心を持つように意識してみたりするといいでしょう。その背景には地域の歴史や文化など、地域の特徴が隠れているかもしれません。

●コミュニケーションをとろう

まち歩きをしていると地域の人々と出会うこともあるでしょう。気持ちよく挨拶をしてコミュニケーションをとるようにしましょう。もしかしたら、同じように地域づくり活動を始めようとしている人や既に地域づくり活動を

している人、あるいはまち歩きで抱いた疑問の答えを持っている地域の物知りさんにも出会えるかもしれません。

●地域を知るための準備をしておこう

事前に本や資料などで地域の成り立ちや歴史などについて調べておきましょう。その上で地域のどこを歩くのか、ある程度コースを決めましょう。

●記録をとりながら歩こう

まち歩きの結果を整理しておく、振り返りができるだけでなく、他の人と共有することもできます。気になったところは、自分なりの言葉でまとめたり、写真を撮ったりして記録しておきましょう。

02 地域づくりの仲間を見つけよう

ポイント

地域づくりのきっかけをつくろう

地域づくり活動を始めするためには仲間の存在が重要です。ひとりで抱え込まず、自分の想いを伝え、支え合える仲間を探しましょう。いろいろな価値観を持った年代、様々な視点や特技、特徴を持った仲間がいることで、多彩な活動が展開できるようになるでしょう。

地域のコミュニティを知ろう

まず、地域にどのようなコミュニティがあるのか調べてみましょう。身近なコミュニティが、どのような活動を行っているか把握することで、仲間を見つけやすくなるでしょう。

地域行事やイベントに参加しよう

地域で行われているイベントや活動に参加することで、地域づくり活動に励んでいる人に出会うことができます。似たような想いをを持った人に出会うきっかけになるかもしれません。積極的に参加・交流してみましょう。

自分の想いを伝えよう

自分の想いを伝えることが地域づくり活動のはじめの一步につながります。自分は地域で何をしたいのか、なぜそう思うのか、まずは自分の想いを身近な人たちに伝えてみましょう。



02 地域の活動団体を知ろう

●身近なコミュニティを見つけよう

地域には区会、PTA、消防団、NPO法人など様々な活動団体があります。これらの団体との交流は仲間づくりのきっかけにもなります。まち歩きで知り合った地域住民や身近な商店主、区長に話を聞いてみたり、インターネットで検索してみたりして、どのような

団体がどのような活動をしているのかなどを調べてみましょう。

つくば市内には、現在約 600 の区会があります。それぞれ「筑波地区」、「大穂地区」、「豊里地区」、「桜地区」、「谷田部地区」、「荃崎地区」の地区連合会に属し、単区会を超えた情報交換等が行われています。

Case
study

交流の場づくり

近年、人口減少や若者流出が進み、コミュニティ維持・地域活力低下が課題となっている地域があります。そのような状況から周辺市街地の取

組では、まちづくり勉強会を開催するなどして、地域の交流促進、資源や課題の共有、未来を語り合う場の創出を行ってきました。



広報つくば

ハウ03 地域のイベント・行事を知ろう

●イベント情報を集めよう

地域のイベントや行事の情報は「広報つくば」や、つくば市ホームページ、公式 SNS「つくばファンクラブ」で知ることができますので、チェックしてみましょう。

●地域のイベントを整理してみる

地域のイベント情報を1つにまとめれば地域の情報発信にも役立ちます。

また、他の地域でも同じような時期に同じようなイベントが開催されていることもあります。周辺の地域と協力することもできるかもしれないので、積極的に情報を共有してみましょう。



Facebook ページ
上郷市街地活性化協議会



さくら交流館のチラシ
栄市街地活性化協議会

04 自分の想いを伝えよう

● SNS を使ってみよう

まずは自分の想いを身近な人に伝えてみましょう。次に、より多くの人に伝えたいと思ったら、SNS を活用することもできます。

SNS はインターネットを通じて、友人同士、同じ趣味を持つ仲間、近隣地域の住民などで、利用者間のコミュニ

ケーションができるツールです。

● SNS 利用の注意点

注意点として、SNS ではインターネット上に情報が公開されることに配慮し、個人情報（氏名・住所・電話番号など）の扱いには十分注意しなければなりません。特に他人の個人情報は勝手に掲載しないようにしましょう。

Case study

地域づくり活動情報の発信

栄市街地では、地域拠点として「さくら交流館」を運営しており、「さくら交流館」のチラシを作成・配布しています。チラシにはSNSのQRコー

ドを掲載し、SNS サイトにアクセスすることで、詳細なイベント情報やイベント参加の申し込みができるように工夫しています。

03 地域への想いを共有しよう

ポイント

地域の未来を話し合おう

地域づくり活動は、活動の担い手の想いによって、その方向性や進め方が変わってきます。何を目的にどのような方向で活動していくのかなどをステップ2で出会った仲間と共有することが大切です。活動の方向性を共有しつつ、それぞれの個性を活かした取組ができるようにしていきましょう。

仲間と語り合おう

立ち話的に、あるいは縁側に並んで、時にはカフェでお茶をしながら、またある時にはまち歩きをしながら、地域の空気感を感じつつ、仲間と地域への想いを語り合いましょう。ステップ1で得た地域の特徴や魅力も共有してみましょう。互いにそれぞれの想いを確認しながら、共有できる方向性を探っていきましょう。

座談会や勉強会を企画しよう

地域への想いをより多くの人と共有するために、座談会や勉強会といった機会を設けて意見交換をしてみましょう。情報発信の方法や開催場所なども含め、参加しやすく、話しやすい雰囲気づくりが大切です。

地域の将来像を描こう

地域づくり活動の方向性を決めるために、自分たちが目指す地域のあり方「将来像」をイメージしてみましょう。あまり難しく考えなくても大丈夫です。重要なのは、仲間たちと共有できる将来像を描くことです。わかりやすい将来像は、共感を得やすく、仲間集めにも役立ちます。



05 定期的な意見交換の場を設けよう

●自由な意見を出し合う井戸端会議

定期的に交流の場を設けて意見交換を継続しましょう。地域内やその近辺で集まれる施設や店舗があれば積極的に活用していきましょう。毎回同じ場所でも、毎回違う場所でもそれぞれ良さがあります。例えば、毎回同じ場所であれば、恒例の集まりとして定着さ

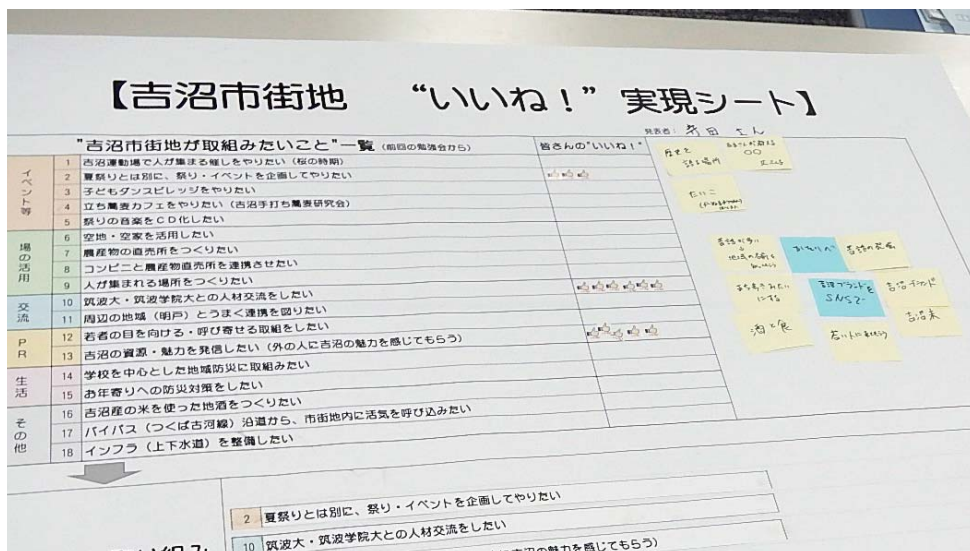
せやすく、使い慣れた場所でリラックスして話し合うことができますし、違う場所であれば環境が変わることで新たな刺激を得ることができ、新たな出会いがあったり、新たな発想が生まれたりすることもあるでしょう。地域の実情に応じて工夫してみましょう。

Case study

仲間との意見交換

周辺市街地間では、協議会・個人レベルでつながり、情報交換が行われています。例えば、北条・小田・栄の各地で活動する人が集まり、情報交換が行われたこともあります。互いにお菓子を持ち寄り、お茶会の

ような雰囲気や、互いの活動内容や悩みについて語り合う場となりました。こうした場を設けることで情報を共有し、互いの地域に持ち帰ることで、地域づくり活動の改善を図っています。



06 勉強会や座談会を企画する際のポイント

●勉強会の準備をしよう

集まる人数や時間帯に合わせて、会場を確保しましょう。会場と時間が決まったら、会の詳細を参加者に情報発信しましょう。（直接配布、メール、電話、SNS等）

●勉強会の進め方

会を円滑に進行するために、役割分担をしましょう。会を進行する司会や

記録をとる書記を決めておくとスムーズに進めることができます。

●場所の確保

集まる場所を確保しましょう。市内には各地に地域交流センターがあるので使用することもできます。使用にあたっては条件等もあるので、詳細は市ホームページをご覧ください。



座談会で“地域のいいね！”を共有

周辺市街地では、各地区で勉強会を開催し、資源の洗い出し、その資源の活用アイデアの検討、相互評価（いいね！シール貼り）を実施しまし

た。アイデアを出すだけでなく、相互評価を行うことで、議論の結果を客観的に見ることができます。

＼ 各周辺市街地の将来像・地域振興のテーマ ／

北条

ゆったり住みたい街・北条

小田

宝篋山(小田山)と小田城が人を結びつけ、住みたくなる街

大曽根

里山と同居する生活利便なまち“大曽根・花畑・筑穂タウン”

吉沼

吉沼ブランドの創出と発信

上郷

小貝川沿いの自然・歴史資源を結びつけた上郷のまち
～いのち・食・文化のまち～

栄

伝統を活かした交流

谷田部

歴史と科学が手を結ぶ 伊賀七に学ぶ やたべの未来

高見原

地域のつながり・連携強化

07 みんなの意見の最大公約数を導き出す

●地域の将来像を共有しよう

集まった方にはそれぞれの想いがあります。大切なことは、みんなが想い描く地域の将来について、共感できるテーマを話し合いの中から導き出すことです。例えば、勉強会で出された意

見を分類し、その分類から共通するキーワードを抽出してみましょう。そのキーワードを組み合わせることで、みんなの意見の最大公約数を導くことができるでしょう。

Case
study

愛着の持てるキャッチコピーをつくる

周辺市街地では、勉強会を経て、それぞれのまちの将来像（テーマ）を設定しました。勉強会を重ねる中で出てきた意見から、自分たちのまちづくりにとって特に重要なもの（重点的に取り組みたいもの）として3

～5個程度に絞りました。それらを包括できるような「地域の将来像（テーマ）」（キャッチコピーのようなもの）を検討し、各地区でまとめました。自分たちで考えたテーマには愛着が湧き、明確な目標となります。

04 地域づくりのアイデアを考えよう

ポイント

地域活性化のヒントを見つけよう

仲間の中で、地域の将来像が共有できたら、次はその実現に向けた活動のアイデア出しです。アイデアを出す中で新たな課題に気づくこともあるかもしれません。そうした課題の解決方法も含め、長期的な視点をもって検討し、将来像を実現するための計画を立てましょう。

このステップでは、地域づくり活動の内容を決めるうえで大切な視点やアイデア出しの手法について紹介します。

地域の魅力・課題を整理しよう

将来像の実現に向けて解決したい課題があるかどうか、ある場合にはどのように解決するかを考えていきましょう。課題がいくつか出てきたときは、すべての課題に一度に対応するのではなく、一番大事だと思われること、あるいは取り組みやすいことなど優先順位を考えることも大切です。

ワークショップでアイデアをまとめよう

より多くの参加者から幅広い意見を集めるにはワークショップ形式での意見交換が有効です。自分の意見を発信するだけでなく、参加者の様々な意見・価値観を知ること、新たな視点が生まれることもあるでしょう。

アイデアを実現する組み立てをしよう

アイデアがまとまったら、次はアイデアを実現するための具体的な組み立てをしましょう。また、地域づくり活動のポイントとして、「地域のためになること」、「地域の多くの方から賛同を得られること」を意識して組み立てましょう。



地域の魅力・課題を整理

08 課題解消に向けた方策を検討

●地域情報や課題を整理

情報の整理とは、「魅力として何を見出せるのか」「課題となっていることは何か」を明らかにすることです。情報を整理するにあたっては、表やダイアグラム、図を活用して、視覚的に整理すると良いでしょう。得られた情報を地図上に落とし込んでみると、新たな発見があるかもしれません。

●課題の解消に向けた方策を検討

地域の課題が明らかになったら、その課題の解消に向けて、何をしたらよいのか考えてみましょう。考え方のポイントとしては、解消すべき課題に対して具体的なアクションを検討することが大切です。5 W 2 H (Why (なぜ)、What (なにを)、Who (だれが)、When (いつ)、Where (どこで)、How (どのように)、How much (いくら) に整理することで、方策を具体化することができます。



アイデアをポストイットに書き込む

09 ワークショップの手法

●ブレインストーミング

(集団でアイデアを出し合う方法)

ブレインストーミングのルールは、「アイデアを批判しない(判断しない)」「質より量を意識する」「既存のアイデアを組み合わせる」ことです。アイデアは付箋などに書き出しましょう。

自由な議論ができるよう、場の雰囲気づくりが重要です。

●KJ法

(全体を俯瞰して整理していくアイデア発想法)

バラバラに集められた多くの情報に対して、関係性を視覚化し、問題解決の道筋を明らかにする方法です。次の手順で進めます。

①アイデアを並べる、②アイデアをグループ化する、③関係性を図解化する、④図解をもとに文章化する。

Case study

旧小田小学校の活用を考える“アイデアソン”

アイデアソンとは、アイデアとマラソンを掛け合わせた造語で、特定のテーマを設定し、グループなどでディスカッションを行うものです。小田市街地では、廃校となった小学

校をどのように地域で活用したいか、効果的な活用方法について検討を行いました。実際に現地を見ながら、より具体的なイメージを持って議論することができました。

周辺市街地で出たアイデアの例

古民家を地域のために活用したい

地域の偉人をまちのシンボルにしてPRしたい

マップを作成し、地域の情報や資源を再確認したい

朝市などを開き、地域の農産物を販売したい

宝篋山から筑波山へのトレッキングロードをつくりたい

わらしべ長者をして地域内で交流する機会を生みたい

複数地域合同で神輿を披露したり、担ぐ体験ができる機会をつくりたい

防災対策と地域振興を結びつけたい

しめ飾りをつくる体験講座を開催したい

小貝川沿いをサイクリングコースとしてPRしたい

サイクリストが街に寄り道するきっかけをつくりたい

大学生と連携して地域づくりを進めたい

10 アイデアの実現に向けた組み立て

●活動の組み立て

アイデアを実現するためには、実行するための役割分担、方法や手順、必要となる資金など、具体的な行動と実施の手順を組み立てる必要があります。活動を組み立てるうえでは、次のことを検討していくことが必要です。

【いつ】全体のスケジュールを作成します。【だれが】リーダー、実施体制、

役割分担を明確にします。【何のために】活動の理由や達成目標を明確にします。

【どこで】対象範囲や、実施場所を明確にします。【どうやって】連絡体制、周知方法、協力者などを明確にします。【何をどのように】実施する内容を整理します。【いくら掛かる】必要な経費、予算を明確にします。

Case study

「地域が主役」のまちづくり

周辺市街地では、地域をどのようなにしたいのか、何をすべきなのかという想いを大切に、まちづくり勉強会で検討してきた地域振興のアイデアを実現していくため、トライ（挑

戦）&エラー（改善）の視点に立って、できること・やりたいことの優先順位をつけて、具体的な実行計画に組み込んでいます。

05 地域づくりの体制をつくろう

ポイント

役割を決めよう

ステップ4でまとめたアイデアを実行し、ステップ3で共有した将来像を実現するための組織体制をつくりましょう。体制や役割を整えることで、活動がうまく分散され、プロジェクトをよりスムーズに進めることができるようになります。

このステップでは、地域づくり活動を進めるための体制づくりについて、気を付けるべき点を含めて紹介します。

地域との関係を築こう

地域づくり活動にはその地域の住民・事業者・団体など、そこで居住・活動する方との協力が欠かせません。活動を円滑に進めるため、より大きな効果を上げるために、地域の関係者との良好な関係を構築しましょう。

活動の目的や目標を共有しよう

関係者が増えても活動の目的がブレないようにすることが大切です。当初掲げた将来像を改めて見返し、活動の目的を再度共有しましょう。改めて見返すことで、目的に対して妥当な手段かどうか再確認することができ、活動の質の向上につながります。

活動に向けた準備をしよう

地域づくりはみんなで協力して進めていくことが重要です。特定の個人に負担が偏ることのないように配慮しましょう。また、体制はそれぞれの地域、メンバーの特徴に応じて動きやすいかたちを考えてみましょう。



周辺市街地活性化協議会発起人会の立ち上げ

11 地域との関係を築く

●地域との関係づくり

地域づくり活動を進めていくには地域住民や地域団体などと信頼関係を築いていく必要があります。意見が食い違うこともあるかもしれませんが、地域を良くしたい、という想いはきっと同じはずです。地域の現状や課題の認

識を共有するところから丁寧にコミュニケーションをとることで、相互理解を深めることが出来るはずです。信頼関係を築き、協力者が増えることで地域づくり活動の幅が広がり、より良い成果を生むことが出来るでしょう。

Case study

周辺市街地活性化協議会「発起人会」の立ち上げ

周辺市街地では、まちづくり勉強会を重ね、さまざまな地域づくりのアイデアが出されてきました。アイデアの実現に向けて、具体的な地域づくりの活動を担う体制をつくるため、協議会の設立を目指して準備会

を開催しました。各周辺市街地では、これまでのまちづくり勉強会に参加したメンバーを中心に、主体的にまちづくり活動に取り組む人が集まり、協議会設立に向けた「発起人会」が立ち上がりました。



周辺市街地活性化協議会規約の検討

12 組織の目的や目標を共有し活動の質を上げる

●目的や目標の共有

地域づくりの目的・目標を共有し、ブレずに一丸となって活動していくことでより良い成果を上げることが出来ます。特に活動母体が大きくなると様々な思考が入るため、当初の目的・目標に対していつの間にかズレが生じてい

るということにもなりかねません。活動の立ち上げ時期はもちろんのこと、活動が進んできた段階でも、目的・目標をしっかりと共有することが大切です。活動の振り返りも含めて、定期的に目的・目標を見返す機会を設けるのが良いでしょう。



役割分担とルールづくり

発起人会では、協議会を運営するうえでの役割分担（役員候補者の人選など）やルールづくりについて議論をしました。特に協議会設立のうえでは、協議会の目的やルール等を定めた「規約」の制定が必要となり、

これからの活動方針等定めた重要なものとなるため、実際の運営をシミュレーションしながら「規約」の条項に関して綿密な協議を繰り返し、十分な調整を行いました。



周辺市街地活性化協議会設立総会

13 適材適所の役割分担で効率化

●地域との関係づくり

地域づくり活動は多くの人にとって初めての経験であり、その役割によっては負担に感じてしまうこともあります。参加している人の中にも、先陣を切って積極的に活動していきたい人もいれば、どちらかというと裏方で支援をしていきたいと思っている人もいま

す。各々が持つ想いの大きさや、個性に応じて適切な役割分担をしていくことで、より効率的で持続的な活動にしていけることができます。とはいえ、役割は固定化する必要はなく、みんなが動きやすいかたちを模索していくことが大切です。

Case study

協議会組織の立ち上げ

周辺市街地では、発起人会で準備を進めてきた内容をもとに、周辺市街地活性化協議会の設立総会を開催しました。設立総会の開催にあたっては、多くの地域の方の参加、賛同を得られるよう、開催案内を配布し

ました。また、吉沼市街地では設立総会と併せて歴史講演会を開催するなど、より多くの人に興味を持つように工夫しながら、設立総会を開催しました。

06 アイデアを実現しよう

ポイント

できることから始めよう

いよいよステップ4でまとめたアイデアを実行していきましょう。地域づくり活動は、無理のない範囲で継続的に取り組んでいくことが大切です。できることを段々と増やしていくことで知識やノウハウが蓄積され、より大きな目標を達成できるようになるでしょう。

また、活動においては情報を発信することが重要です。より多くの人にPRすることで活動の効果も高まるでしょう。

このステップでは、継続的な活動となるよう、次の活動に結びつけることの大切さについて紹介します。

スモールスタート、小さく始めて大きく育てよう

まずはできることから少しずつ。大きな目標ほど達成には時間がかかります。中長期的な視野で段階的に目標を設定することもいいでしょう。無理のない範囲で活動を継続し、少しずつ目標に近づいていきましょう。

地域資源を活用しよう

どんな地域にもその地域固有の地域資源が存在します。それは歴史や文化、自然や景観、あるいは特技を持った地域人材など様々です。地域資源を活かして、その地域らしい活動を目指しましょう。

トライ & エラーを繰り返し、次の活動に繋げよう

地域づくり活動は継続することが大切です。思ったような成果が出なかったときは、何か改善できることはないか、仲間たちと共に考えてみましょう。



さくら交流館 手作りワークショップ

14 スモールスタートの地域づくり

はじめから計画が大きすぎると準備が大変になってしまい、なかなかスタートを切れない…といったこともあります。最初は大きなことではなく、無理なくできる小さなこと、スモールスタートを切りましょう。段階的に目標を設

定し、ステップアップしていきましょう。そうして活動を継続していくことで大きな目標を達成することも可能です。目標が大きすぎると感じたら、まずは、すぐに始められることは何かを考えてみましょう。

Case study

地域づくり活動の計画を立てる

周辺市街地活性化協議会では、年間の活動計画について総会に諮り活動をスタートさせていますが、活動計画を立てるうえでは、無理な目標を立てずに自分たちのできる範囲の計画を立てるようにしています。

また、収支予算計画や大まかな活動スケジュールを立てています。実際の運営にあたっては、臨機応変な活動の展開を行っていくことも地域活動を促進するためには大切です。



上郷なるほど MAP

がんばる上郷！かわら版

大曽根・花畑・筑穂 TOWN まちあるき

15 地域資源を最大限活用する

それぞれの地域にはその地域固有の歴史や伝統、文化、自然、産業、街並み・景観、特産品、そして地域住民やそのコミュニティを含め様々な「地域資源」があります。多くの共感を得て活動を継続・拡大していくには、地域

資源を最大限活用し、その地域らしさを持たせつつ、地域に貢献していくことが重要です。地域らしさを知ることによって愛着やシビックプライドが芽生え、新たな活動の担い手も生まれてくることでしょう。

Case study

“地域のいいね！”マップ（地図）にまとめる

上郷市街地は、小貝川近くに形成された市街地で、かつては養蚕業で栄えていた歴史ある地域です。上郷市街地活性化協議会では、地域の歴史・文化等の資源・魅力を集約した「上郷なるほど MAP」を作成しました。

大曽根・花畑・筑穂地域では、古くからの伝統ある地域と、新しい地域との交流のきっかけになるよう、まち歩きマップ、生活利便マップ、安心・安全マップを集約した、「大曽根・花畑・筑穂 TOWN まちあるき」を協議会で作成しました。



食と酒の祭 in 吉沼

16 連携で活動の幅を広げる

地域づくり活動への共感・協力を得るためには、地域を巻き込んだ一体感のある活動となるよう意識することが大切です。また、地域内はもちろん、地域外との連携も重要になります。例

えば、地域づくり活動の経験者（有識者や専門家など）を地域に招いて、連携や協働をしながら知識やノウハウを共有することで、地域づくり活動の幅が大きく広がることでしょう。

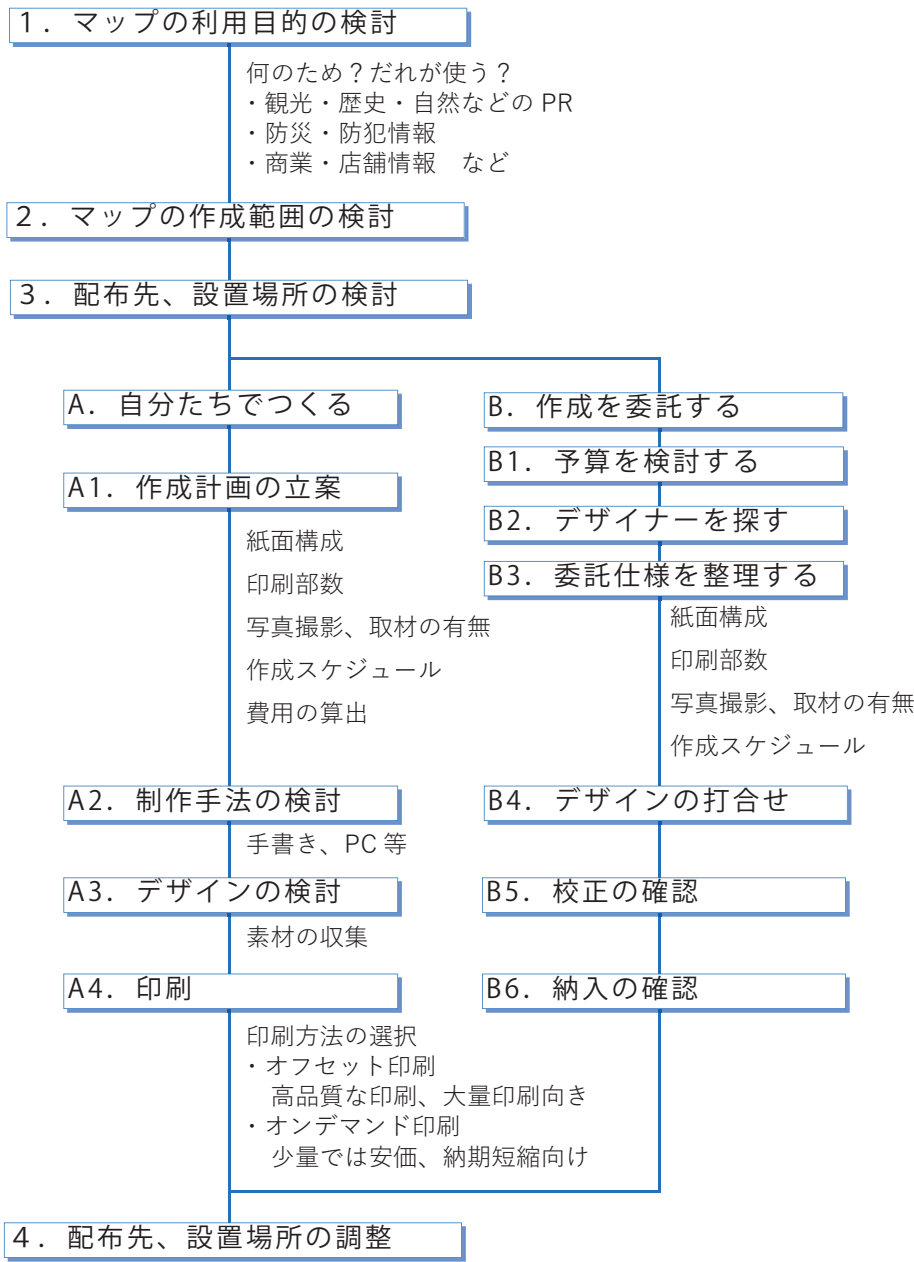
Case
study

地域の特色を活かすイベントを開催

吉沼市街地は、古くから街道の要衝として栄え、酒蔵や菓子店などの商業が営まれてきた地域であり、夏には活気のある祭りが行われる地域です。2020年2月には、地域の食と酒・地域の伝統の祭りを活かして、

新しいイベント「食と酒の祭 in 吉沼」を企画しました。ワークショップを通じて、地域の資源・特色を活かすアイデアを検討し、それが食と酒の祭の開催につながりました。

■実務編／マップづくりのプロセス



準備を進める際のポイント

ノウハウ①

マップを手にとってもらいたいターゲットを想像して作成しましょう。また、マップのテーマを決めて、どの要素を強調するのかなど、テーマに沿って掲載する内容をまとめることが大切なポイントです。どのように楽しんでもらいたいのか？何を知らしてもらいたいのか？独自のマップをつくることで、地域の楽しみ方を紹介しましょう。

ノウハウ②

マップの作成範囲を決めましょう。マップの作成には、地域の多くの情報を集めることが必要となります。見せたい内容を適正な範囲で作成するように計画しましょう。

ノウハウ③

マップの縮尺や範囲によって、紙のサイズや折り方を決めましょう。マップにはいろいろな折り方があり、どのように使うのか、目的に合わせて検討してみましょう。

ノウハウ④

見やすいデザインとなるように工夫しましょう。デザインのポイントとしては、次のようなことに注意しましょう。

- ①写真（図）の大きさやレイアウト、②見出しや説明文のフォント、③文字の大きさ、④文章の長さ・配置場所、⑤背景や文字の色使い

ノウハウ⑤

著作物の取扱いに注意しましょう。デザインの素材を検討するうえで、インターネット上のデザインなどを利用する場合は、著作権の有無について確認しましょう。また、マップ作成をデザイナーに委託する場合にも、著作物の取扱いについて、事前に確認するようにしましょう。

ノウハウ⑥

印刷方法の特徴を踏まえて発注をしましょう。よく使われる印刷手段には「オフセット印刷」と「オンデマンド印刷」の2種類があり、それぞれ次のような特徴があります。

【オフセット印刷】高品質な印刷が可能。部数が多くなるほど一枚あたりのコストが安くなる。

【オンデマンド印刷】オフセット印刷に比べて品質は低いが納期は短くできる。

■実務編／イベント実施のプロセス

1. 企画の立案	目的（何のために） ターゲット設定（誰に対して） 目標（何を成し遂げる） 予算（実施のための経費） スケジュール（準備スケジュール）
2. 日程と会場の調整	規模の設定（参加者数など） 日程の調整（関係者、会場など） 会場の予約（公共施設の予約など） 駐車場の確保（関係者、参加者）
3. 宣伝・告知の計画	チラシの作成 回覧、広報誌、SNS での情報発信 出店者の募集と受付 参加者の募集と受付
4. 準備	運営マニュアルの作成 進行プログラムの作成 会場レイアウト、会場案内の作成 機材、備品等の手配 保健所、消防、警察等への連絡 安全管理、連絡体制の構築
5. 開催	当日の役割分担 イベント記録の作成、情報発信 ゴミの取扱い
6. 検証	反省・改善点 目標達成の分析 経費等の精算 コミュニケーション等

※上記は実施ケースの一例です。イベントの目的や開催の内容に応じて、適切な計画を立てましょう。

準備を進める際のポイント

ノウハウ①

イベントの企画立案を行う際には、イベントの目的、すなわち「何のためにそのイベントを開催するのか」という点を明確にしておくことが重要です。イベント開催の目的や目標を定めておくことでブレのないイベント企画ができ、関係者間での認識の共有が図りやすくなります。

ノウハウ②

開催日程の調整は、地域の他のイベントと重ならないように注意が必要です。企画したイベントの集客にも影響するため、地域の年中行事や学校関係の行事など、どの時期にどのような催しがあるか把握しておきましょう。

ノウハウ③

イベント情報を発信する手段として、SNS (Facebook、Instagram、YouTube など) を活用しましょう。SNS を使うメリットとして、無料でイベントの情報発信ができることや、サイトの管理者を複数人で設定でき、情報発信の役割分担をしやすいことなどがあります。

ノウハウ④

運営マニュアルは実際にイベントの準備・運営を進めていく上での指針となる重要なものです。事前に運営マニュアルを作成することで、準備段階での見落としを防ぐことができます。運営マニュアルの重要な項目は次のようなものがあります。
1. 運営組織図（連絡体制）、2. 全体タイムスケジュール、3. 当日プログラム、4. 機材・設備利用計画、5. 会場レイアウト、6. 役割分担表、7. 会場誘導・駐車場誘導、8. 緊急時の対応リスト、9. 準備品チェックリスト

ノウハウ⑤

イベントの内容によっては、各種関係機関への手続きが必要になる場合があります。手続きには時間がかかることもあるため、早めに関係機関に相談しましょう。

【イベント等において飲食物を取り扱う場合】

保健所へ事前の手続きが必要となります。手続きは、食品営業許可申請と、食品取扱（出店）届があります。

【祭礼、縁日、展示会など多数の人が集合する屋外での催し】

対象火気器具等を使用する露店等を開設する場合、所轄消防署長への届け出が必要となります。

ノウハウ⑥

もしもの事故に備えて、イベント保険への加入をお勧めします。イベント保険は主催者が加入する保険であり、イベント毎に加入ができます。思わぬ事故へのリスク対策として、加入しておくことをお勧めします。

■資料編／周辺市街地における協議会設立までの取組

主な取組

内 容

2018

周 辺 市 街 地 の
リ サ ー チ

周辺市街地カルテの作成

- ・地域の魅力をマップに整理した資料を作成

2019

周辺市街地まちづくり
勉強会

第 1 回勉強会

- ・顔合わせの機会（お互いの取組を知る）
- ・気楽に話せる雰囲気づくり

第 2 回勉強会（周辺市街地カルテを活用）

- ・地域の資源・魅力を出しきるワークショップ
- ・地域の資源・魅力の活用法を考えるワークショップ

第 3 回勉強会

- ・地域振興の方向性（キャッチフレーズ）を整理するワークショップ

2019

周辺市街地まちづくり
合同勉強会

周辺市街地まちづくり合同勉強会 vol.1

- ・地域づくりの仲間を見つけよう（顔合わせの機会）
- ・地域づくりのヒントを見つけよう（いいね！の共有）

周辺市街地まちづくり合同勉強会 vol.2

- ・地域の将来像・地域振興のテーマを決めよう
- ・地域で話し合ったことを共有しよう

2019～2020

周辺市街地活性化協議会
設立準備会

協議会設立に向けた発起人会の立ち上げ

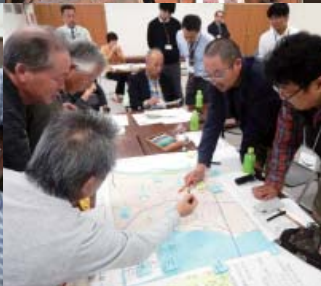
- ・発起人の人選
- ・規約案の作成、役員候補者の人選
- ・総会開催までのスケジュール調整
- ・総会の準備（資料作成・日程調整などの準備を含む）

2020

周辺市街地活性化協議会
設立総会

設立総会の開催

- ・規約案の承認
- ・役員人選の承認
- ・事業計画及び収支計画の承認



筑波大学名誉教授 蓮見 孝

日産自動車株式会社にてカーデザインに携わったのち、筑波大学に転籍し、茨城県総合計画審議会副会長、つくばスのデザイン、茨城県産酒のブランディングなど、茨城県および県内の市町村を中心に、数々の地域振興プロジェクトに携わっています。

2018年よりつくば市周辺市街地の地域振興のアドバイザーとして携わっており、2019年、2020年の「つくばR8地域活性化プランコンペティション」において審査委員長を務めています。



【コラム】美味しいお米のはなし

40年近く住み慣れた東京から茨城県つくば市に移住したのは、今から30年ほど前のこと。縁もゆかりもない地方暮らしに、興味津々の日々だった。

クルマを走らせていると、あちらこちらに小屋が立っている。「公衆トイレの多いまちだな」と思っていたが、やがてそれは精米機だと知った。農家が脱穀に使うのだらうと思ったが、それも違った。玄米を精米し、その削りカスが糠だという。43年間、毎日ご飯を食べてきたけれど、恥ずかしながら、玄米も糠も実物を見たことはなかった。

それから2年後の1993年、記録的な冷夏によって「平成の米騒動」が起きた。どこにもまともな米はないので、しかたなく外米などとバカにしていた細長い米を食うはめになってしまった。

やがて「田園の生活なんだから、農家から米を買えないものか？」と思うようになった。たまたま知人の実家が北条で米をつくっているという。つくばの極上米といわれる北条米を手に入れたと思い、農家を訪ねた。季節外れではあったが、30kgの玄米を譲ってもらうことができた。ようやく精米機を体験する時がきた。「ガ〜ッ」という力強い音が、田舎暮らしの喜びを実感させた。

都会では、米はスーパーで買う。こだわりといえば、魚沼コシヒカリというようなブランド米だが、つくば暮らしでは、こだわりのリアリティが違う。フランスからやってきた留学生も、すぐに農家から米を買うようになった。「安いパンには何が入っているかわからない。米は正真正銘混ざりっ気ナシ。日本のごはん、オイシイ！」とうれしそうに笑った。

編集後記

【企画発行】つくば市 都市計画部 周辺市街地振興室

■吉岡 誠生

地域づくり活動の進め方は地域の数だけあると思います。実際の活動を通して、それぞれの方法を発見していただくきっかけになれば、との想いで、このブックを制作しました。私たちも地域の皆さんとの活動を通して教わることが多く、日々楽しみながら学び続けています。このブックを手にとった方と一緒に地域づくり活動ができる日を楽しみしています。

■宇津木 優太

ガイドブックの制作を通じて、これまで各地域で取り組んできた地域づくり活動を振り返ってみると、活動に携わらせていただく中で、数多くの人と出会い、様々な経験をさせていただいていることを実感しました。このガイドブックが、新たに地域づくり活動をスタートする人の手助けとなれば嬉しく思います。

■廣松 光介

この本を手にとって、地域での活動をやってみたい！参加してみたい！という思いを持っていただければ幸いです。その気持ちが地域づくりにつながる第一歩だと、私たちは思っています。地域づくりは誰でもない、みなさんが主役です！

■南塚 玲

ガイドブックの制作にあたり、地域づくりの第一歩は、「地域に興味をもつこと」ということを改めて感じました。私たちが何気なく生活している街並みにも、知られていない地域資源が眠っていると思うとワクワクします。地域がより魅力的な場になるように、このブックが少しでも皆さんのお役に立てればと思います。

【編集・作成】株式会社ミカミ（担当：黒崎 健司，大森 賢人，寺門 佑美）

弊社では2017年から周辺市街地の地域づくり活動の支援に携わってまいりました。

今でこそ多彩な活動が見られる周辺市街地での取組ですが、その裏には多くの意見交換や勉強会でのディスカッションなど地道な活動がありました。そうした日々の積み重ねが、地域の個性ある取組の実現に繋がっています。

もし地域の中で、あるいは日常生活の中で何かやってみたいことや気がかりなことがあれば、本書を参考に一步踏み出していただく

さい。まずは「自分のため」に、できることから少しずつ、地域づくり活動のはじめの一歩となれば幸いです。

「自分ごと」として地域に向き合うことは、愛着を深めることにもつながり、そうして地域での暮らしを楽しむあなたの姿も、地域の魅力の一部になっていきます。そして、あなたの姿が、誰かの行動のキッカケに、素敵な仲間との出会いに、地域づくり活動のタネになるかもしれません。

人と人がつながる「ば」づくり

つくばのまちには、あたたかい人と人との
つながりが見える場所があります。

つくば市では、地域づくり活動を紹介する
インタビューブック「つくばのばづくり」をご用意しています。
ぜひ本冊子とあわせて参考にしてみてください。



発行：つくば市 都市計画部 周辺市街地振興室
つくば市研究学園一丁目1番地1
Tel 029-883-1111（代表）